



さわやか トカラ情報

〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL099-227-9771

発行
十島村教育委員会

【様々な縁を繋ぎ、十島村の今後を見据えて、前に進みます!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

「秋の日のつるべ落とし」と言われますが、日没が早くなりあっという間に暗くなり、寒さも身に染みる季節になりました。秋を感じる暇もなく”冬本番”が急にやってきたように感じます。

1 対馬丸記念館からの来訪

今年は戦後80周年の年となります。御存じの通り、悪石島沖で学童疎開船「対馬丸」がアメリカの潜水艦からの攻撃を受け、1,788人の乗船者のうち1,484名の尊い命が失われ、多くの遺体が悪石島にも漂着しました。その亡骸を悪石島の島民の方々が丁寧に弔い、戦後も学校の児童生徒がその意思を引継ぎ、月1回「青空活動」として慰霊碑を掃除し、焼香を行っています。その活動を聞いた沖縄にある「対馬丸記念館」から84歳の会長をはじめ8名の方々に十島村役場を訪問していただきました。本来は11月10日(月)のフェリーとしま2で悪石島に向かう計画でしたが、エンジントラブルのため出航できませんでした。悪石島に渡って地元の方々や悪石島学園の児童生徒とも交流する予定でした。そして、ななしま3で、沈没現場近くまで行って御霊を慰霊する予定でした。残念ながらその願いは叶いませんでしたが、その当時「青空活動」と名付けられた床並先生が鹿児島市の中州小学校の校長先生としていらっしゃいましたので、8名の御一行は直接学校に行かれて、床並校長先生から当時の状況等を詳しくお聴きになり、満足して沖縄に帰っていかれました。これからも、悪石島と沖縄の交流を続けていっていただければ、ありがたいと思っております。

2 総合的な学習の時間「トカラ科」からの島おこしの提案

十島村の全ての学園では、総合的な学習の時間を「トカラ科」と位置付け、自分たちの住む島の自然や歴史・文化を調べ、まとめ、そしてそれを発表(発信)する取組をしています。

今回、宝島学園の後期課程7・8年生6名が、村長をはじめ役場職員等に向けて「宝島の魅力発信～Takara島おこしプラン～」をリモートで発表してくれました。「トカラ科」で、学ぶ後期課程生が、宝島の現状を理解し、離島が抱える過疎の打開を目指して、生徒たちが気付いた「宝島の魅力」を島外に発信することを目指す学習を進めていきました。探求する過程を繰り返しながら、自分の考えを多くの人に伝える手段や技術を習得し、今回のプロジェクトを実行することができました。また別の生徒はアーティストを呼び込むことで、定住に繋げることを、そしてまた別の生徒は、波の力を活用した「波力発電」で島おこしをするアイデアの提案をしたり、6人目の生徒は空き家活用で、若者向けや家族向けのシェアハウスを活用しての島おこしの提案をしたりしてくれています。あとは、宝島にサテライトオフィスを置いて、IT企業やアニメ制作系企業を誘致するなど、本当にユニークで柔軟な発想で大人を驚かせるようなアイデアがたくさんありました。もちろん費用や設備投資など大人の視点からすると、多くの課題がある提案もあります。しかし、自分たちで取材し、それぞれの視点で、どうすれば現状の過疎化を打開できるかを真剣に考え、自分なりの方法で解決するために提案をしてくれました。

今後、宝島自治会の中でも、地元の方々へプレゼンを行い、多くの意見をいただきながら、若者らしい発想の島おこしを提案していく予定です。

そして、どの島でも、このように児童・生徒が自分たちで考え、調べ、提案できるような探求学習を進め、「トカラ科」を、より深く広げていってほしいと願っています。

十島村で学ぶ

【御岳太鼓】

中之島学園 6年 吉野瑛太

中之島学園では、伝統的に和太鼓を行っている。名前は「中之島御岳太鼓」。

ぼくは、今年から御岳太鼓の副リーダーになった。ぼくの太鼓は「かつぎおけ」という太鼓だ。去年からずっとたたきたかった太鼓で、今年になってようやくたたきすることができた。

太鼓を叩くと心が踊り、気持ちが高まる。力強く叩くと音の振動で体が震える。さらに全員の音が揃うとその場全体が震えるのが分かる。それが楽しくて大好きだ。

それよりも副リーダーとして太鼓の音色が合うようにチームをまとめるのにやりがいを感じる。

去年は、台風やコロナの影響で太鼓の発表をする機会がほとんどなかった。今年は、先生方の出迎え、運動会、トカラマラソン、文化祭で発表することができた。中でも、心に残っているのは、先日行われた校区文化祭での発表だ。文化祭での発表は、副リーダーなのでMCもした。さらに、9年生と行う最後の発表だった。とても緊張したが、気持ちを込めて叩いた。失敗せずに叩くことができた。とても楽しかった。

9年生が引退して、叩く太鼓の入れ替えが行われる。さあ、練習を始めよう。

令和7年8月15日 南日本新聞「若い目」

悲惨な戦争

小宝島学園 7年 前田輝

7月に十島村の後期課程連合修学旅行がありました。心に残ったことは、長崎の平和学習です。ニュースでしか見たことがなかった平和祈念像ですが、想像以上の大きさにびっくりしました。

原爆資料館では、戦争の悲惨さと平和の尊さを知りました。焼け野原になった長崎の町の写真や、兵士が残した品などを見て、どれだけ戦争が悲惨かを知りました。

僕たちは戦争を知りません。それでも戦争、核兵器の恐ろしさや平和の尊さをあとの世代に伝えていかなければなりません。この修学旅行で学んだことを今後に生かしていきたいです。

令和7年8月18日 南日本新聞「若い目特集」

イカのイメージで

諏訪之瀬島学園 6年 杉田 董

5,6校時に、水泳がありました。場所は元浦港の船だまりです。水泳になると、漁船を別の場所に移動してくれます。

海水の色は、すきとおっていて海の底が見えます。サンゴも見えます。こわくはありません。小さいときから泳いでいるからです。

黄色と黒のシマシマの小さな魚が泳いでいます。つかまえたくなります。生き物に出会える海が、プールより好きです。

クロールと平泳ぎをしました。どちらかというと、平泳ぎが得意です。クロールは息継ぎのタイミングや大きくかくことがとても難しいです。息継ぎのときに波しぶきが口に入ると、とてもしょっぱいです。

お父さんと釣りに行ったときに、スイスイと泳ぐイカを見つけました。スイスイと波に平行で、シューと泳いでいました。そんなイメージで水泳の練習をがんばっています。

『誰か』のことじゃない

人権週間

人権週間は、12月4日から12月10日の1週間です。

人権週間は、昭和23年12月10日の国連総会において「世界人権宣言」が採択されたことを記念して国において定められたもので、今年で77回目となります。



私たちの社会には、部落差別をはじめとして、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人、犯罪被害者やその家族の人権、北朝鮮当局による拉致問題、感染症、性的マイノリティ等に関する人権問題が依然として存在しており、さらに、インターネット上の誹謗中傷、震災等の災害に起因する偏見や差別など様々な人権問題が生じております。これらの問題を解決するためには、私たち一人ひとりが人権問題を「自分自身にも関わりのあること」として受けとめ、身近な人権問題について関心を持ち、正しく理解することが大切です。

全ての人の人権が尊重される社会づくりのため、この機会に、ぜひ皆さんもあなたの身近なことから人権について考えてみましょう。



【参考】こどものけんりプロジェクト→

【口之島学園からのメッセージ】

口之島学園 教諭 新保 浩一

無理の上に成り立つ便利は我慢

昨年の社会科の授業の中で、運輸業の時間外労働が規制されるという2024年問題について話題にした。健康や生活を守るためのものである。一方で、宅配便の到着がこれまでより遅くなったり、観光バスなどの確保が難しくなったりと、利用者にとっては便利さや快適さが減少することになる。商品の到着が遅くなることに文句を言う人もいることだろう。便利さや快適さには、それを支える多くの業種の労働者が「無理をしている」背景があることまで考えなければ、世の中は上手く回らなくなる。地元のインフラもフェリーも学校も同じ。あれもやれ、これもやれ、もっともっとと求められることが増え続けられれば、現場の負担が増して仕事の遅れやミスも増えるかもしれない。そしてその疲弊している様子を見てこれから社会に出る若者は、そういう仕事を選ばなくなるかもしれない。

極端だが、もしみんなが動画配信などを仕事に選ぶ時代が来たら、世の中どうなってしまうのだろうか。すでに人手不足と言われる業種もあるが、実際には「人はいる」のにその業種を希望しないだけかもしれない。私たちの生活は、いろんな方々の仕事のおかげで確保されている。本当にありがたいことだ。注文した商品が届くこと他に、ガスや水道や電気、電話など、安定して供給されているために、「あるのが当たり前」と思いがちだが、それを支えてくれるたくさんの人々に感謝して生活したいと思う。もし私たちが無理をさせすぎているのなら、ちょっと我慢しようと思う。

便利さや快適さを求めすぎるあまりに無理をさせない社会になることを願う。